

件 名	今後5年間の阪堺線への支援策の方向性について
経過・現状 政策課題	<p>【経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年12月 阪堺電気軌道(株)から堺市長への阪堺線「堺市内路線」に関する緊急要請 ・平成22年6月 「阪堺線(堺市内)の支援策(協議案)」を阪堺電気軌道(株)に提示 ・平成22年10月 堺市長・阪堺電気軌道(株)社長 存続基本合意 ・平成22年10月 阪堺線(堺市内区間)への支援を開始 ・平成27年8月 阪堺線への支援の中間検証結果を公表 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度における1日あたり平均利用者数は、支援策前(平成21年度)に比べて2,471人/日(約12.5%)増加し、利用者の目標の約7割を達成 ・26年度の収支状況は、運賃値下げに伴う減収分を上回る収入増となっており、阪堺電軌の自助努力も含めて、支援策前より約1.3億円改善 ・5年間で27.6億円の投資に対して、増加利用者ベースで64.5億円の経済波及効果 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪堺線(堺市内区間)の更なる安全性の向上 ・阪堺線(堺市内区間)の早期の自立再生 ・阪堺線支援の市全体への効果の波及
対応方針 今後の取組(案)	<p>【対応方針・取組内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①綾ノ町停留場～御陵前停留場間の併用軌道区間は、軌道改修が概ね完了したことから、専用軌道区間を中心に老朽化対策を実施し、更なる安全性の向上を図る。 ②より高い利用者増加の目標に向けて、阪堺電軌の自助努力を促す観点から、利用者拡大に対する補助を重点配分する。併せて、目標が達成されない場合は、補助の減額も条件とする。 ③「沿線資源との連携」や「他の交通機関との連携強化」、「多様な主体の参加・協働の機会拡大」を実施し、市全体への支援効果の波及をめざす。
効果の想定	<ul style="list-style-type: none"> ・阪堺線(堺市内区間)の早期の自立再生 ・阪堺線支援の市全体への効果の波及
関係局との政策連携	文化観光局、産業振興局、堺区役所、西区役所

阪堺線（堺市内区間）への支援の中間検証について

1. 阪堺線支援の中間検証

堺市では、阪堺線堺市内区間の自立再生をめざし、国からの補助金も活用しながら、10年間に渡る支援を実施しています。支援の中間年である平成27年度に「利用者数の推移」「阪堺電軌の収支状況」「阪堺線支援の経済波及効果」などについて、学識経験者の監修を頂きながら、中間検証を実施しました。

◆ 阪堺電軌全路線（阪堺線、上町線）の利用者数の推移

- 運賃施策や低床式車両の導入等、様々な支援の実施により、支援策前より利用者が増加
- 平成26年度における1日あたり平均利用者数は、支援策前（平成21年度）に比べて2,471人/日（約12.5%）増加⇒目標数（約3,600人/日）の約7割

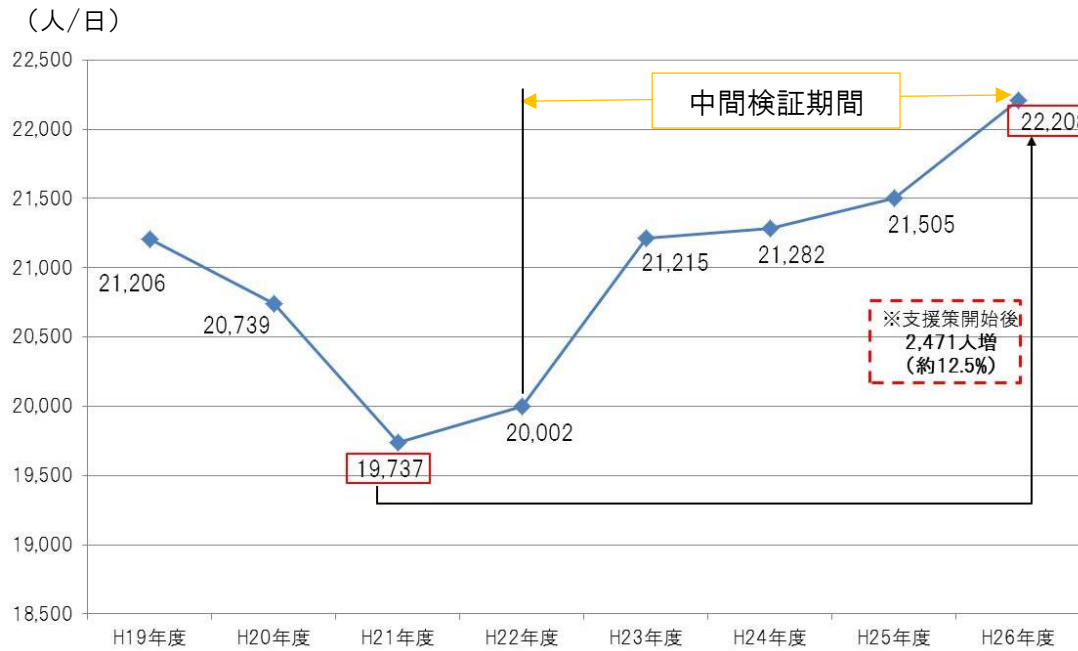


図. 一日あたり平均利用者数推移

◆ 阪堺電軌の収支状況

○ 利用者増加により、運賃値下げに伴う減収分を上回る収入増となっており、阪堺電軌の自助努力も含めて、収支が改善傾向にある。

表. 軌道事業収支状況（堺市補助を除く）

	平成21年度	平成26年度	増減
営業収益	1,204,639	1,238,025	33,386
営業費用	1,543,789	1,445,481	▲ 98,308
営業損益	▲ 339,150	▲ 207,456	131,694

(単位：千円) 未満切捨

◆ 阪堺線支援の経済波及効果 <堺都市政策研究所による推計>

○ 支援策後、5年間の投資総額27.6億円に対して、増加利用者ベースで64.5億円の経済波及効果を生み出している。

表. 堺市における阪堺線の5年間の投資額（単位：億円）

	堺市一般財源	国費	計
利用者拡大	8.75億円	---	8.75億円
高度化・老朽化	13.31億円	5.54億円	18.85億円
計	22.06億円	5.54億円	27.60億円

表. 堺市における阪堺線の5年間経済波及効果（単位：億円）

項目	増加利用者ベース	全利用者ベース
直接効果と一次効果	54.95	87.05
二次波及効果	9.55	15.15
合計	64.50	102.20

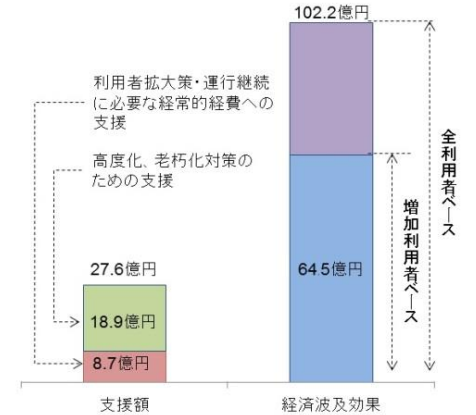


図. 5年間の阪堺線への投資額と経済波及効果比較

◆ 監修者から提起された今後の課題

- 安全性を持続的に確保していくために、老朽化対策及び維持・補修の財源を今後も安定的に確保していく必要がある。
- これまでの支援策や阪堺電軌の自主的な取り組みに加え、多様な主体の参加・協働の機会を広げることで、更なる利用者の増加を図っていく必要がある。
- 阪堺線（堺市内区間）の自立再生をめざして、基金への寄付・国費等も活用しながら、引き続き支援を実施していく必要がある。

2. 中間検証結果に対する主な市民意見

・ 募集期間：平成27年9月1日～10月9日

【利便性向上策】

- ・ 堺トラムの運用体制を5両体制にできれば、運用が安定し増発も可能
- ・ 石津川～東湊間の横揺れが激しいため、軌道の補修が必要
- ・ 南海本線の高架化の際、浜寺公園駅と浜寺駅前間の歩道に屋根を設けて欲しい

【観光施策】

- ・ 阪堺線と沿線の観光施設をリンクさせて積極的にPRすべき
- ・ 外国人を阪堺線に乗せて、堺市に誘導する
- ・ 大阪市から堺市に来る人の流れが出来るような施策が必要
- ・ 堺市の小学校（低学年）の活動に「阪堺線」を利用してもらう

【支援策の検証方法等】

- ・ 事業計画を市民によりわかりやすい形で示し、年度毎にPDCAサイクルを回していく必要がある
- ・ 支援策の位置づけを市民によりわかりやすく説明するべき
- ・ 中間検証は、実体を検証していない

【その他】

- ・ 阪堺電軌が自力で運営が出来るようになるまで支援を続けていただきたい
- ・ 阪堺線活性化として、東西線（例えばJR堺市-堺東-南海堺-堺浜）を中長期計画的に取り組む
- ・ 阪堺線への支援は特定民間会社への支援であり、行政活動の範囲を逸脱するもの

3. 今後5年間の阪堺線への支援策の方向性について

・中間検証の結果と市民意見や学識経験者からの指摘事項などを踏まえ、今後5年間の阪堺線への支援策の方向性については、基本的に今までの支援策の方向性を踏襲しつつ、より一層の支援の目的の達成に向けて、3つの観点で進めることにしました。

<3つの観点>

- ・「更なる安全性の向上」
- ・「阪堺線堺市内区間の早期の自立再生」
- ・「市全体への効果の波及」

◆更なる安全性の向上について

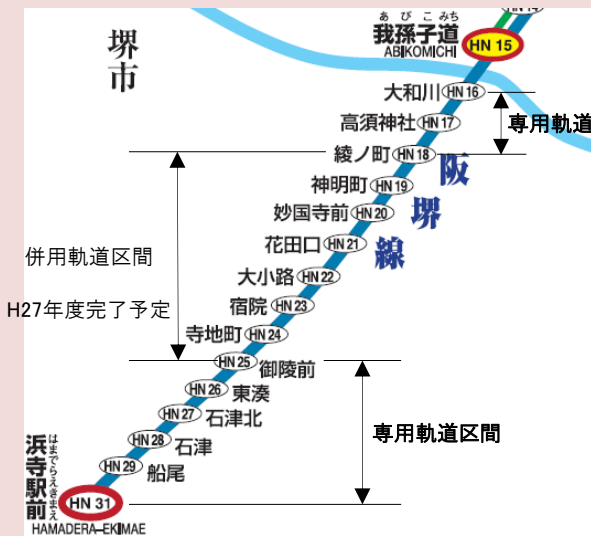
・綾ノ町停留場～御陵前停留場間の併用軌道区間は、軌道改修が概ね完了したことから、専用軌道を中心に老朽化対策を実施し、更なる安全性の向上を図る。

<軌道改修内容>

- レール・まくら木の交換
- ※併用軌道と同様、国費も活用しながら老朽化対策を実施

<軌道改修予定区間>

- 大和川～綾ノ町間
約1,800単m (916m×2)
- 御陵前～船尾間
約5,100単m (2,550m×2)



併用軌道



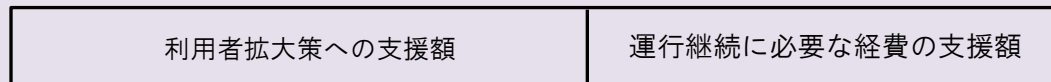
専用軌道

◆阪堺線（堺市内区間）の早期の自立再生について

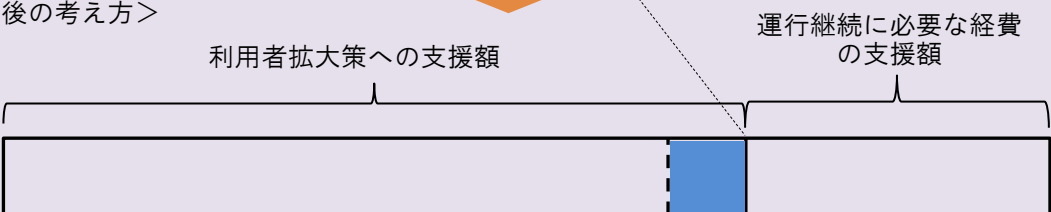
・より高い利用者増加の目標に向けて、阪堺電軌の自助努力を促す観点から、利用者拡大に対する補助を重点配分する。併せて、目標が達成されない場合は、補助の減額も条件とする。

※利用者拡大策および堺市内区間の運行継続に必要な経費への支援として、年間2億円を上限として、支援を実施

<今までの考え方>



<今後の考え方>



目標が達成されない場合は減額

◆支援策の市全体への効果の波及について

○沿線資源との連携

・山口家住宅、伝統産業会館、利晶の杜、南宗寺など沿線の様々な資源や、世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群などとの相互連携を強化する。

■これまでの取り組み

- 阪堺線沿線でのおもてなしチケットの特典協力
- 阪堺線に関するイベント実施
- 堺トラム車内でのイベント情報ポスター掲示
- 阪堺線のジオラマ展示

→ 継続・強化

<以上に加えて>

- 世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群や利晶の杜との連携を展開
- 百舌鳥古墳群や利晶の杜へのアクセスとして、阪堺線をPR
- 堺トラム車内にて、百舌鳥・古市古墳群や利晶の杜、イベントを告知
- 百舌鳥・古市古墳群や利晶の杜についての阪堺電軌自身による広報活動

○他の交通機関との連携強化

・堺まち旅ループなど他の交通機関との連携を進め、大仙公園から旧市街地に至る観光エリアでの回遊行動を誘発していく。

- 阪堺線と堺まち旅ループなど他の交通機関との連携を強化
- おもてなしチケットの販売強化などにより、回遊行動を加速
- 関連情報などの発信強化により、誘客を促進

<参考> 旧おもてなしチケットと堺都心1日フリーの合計枚数

平成26年度（10月末現在）

旧おもてなしチケット 1,330枚
堺都心1日フリー 2,254枚 合計 3,584枚

平成27年度（10月末現在）
7,544枚

※平成26年度（実績）7,299枚

○多様な主体の参加・協働の機会拡大

・多様な主体が阪堺線との連携に参加・協働ができる機会を増やしていく。



ちん電マルシェの様子

沿線でのイベントだけでなく

- 関連団体との連携
- 外国人対応の実施等
- 大道筋まちづくりとの連携
- 大阪市内のイベントとの連携